



スライドを用いて、分かりやすく講演する西田氏

脳をわくわく状態に保つことが大切

■ココロわくわく元気アップセミナー

市では11月22日、い〜らでココロわくわく元気アップセミナーを開催しました。

講師に、株式会社サンリ代表取締役社長で夢や目標の達成を支援し、数多くのトップアスリートのメンタルトレーニングの指導をされている西田三見氏を迎え、420人が参加。西田氏は、「マイナスイメージである『疲れた』という言葉は無意識に脳を疲れさせてしまう。どんな状況でもわくわく状態を作り出して前向きに生活してほしい」と来場者に呼び掛けていました。

保護司として30年以上活躍

■平成23年秋の叙勲

公共に対して功労のあった人を表彰する秋の叙勲が政府から発表され、市内では尾崎光昭さん(70歳、地頭方)が瑞宝双光章を受章されました。

尾崎さんは、曹洞宗孤雲寺の住職を務める傍ら昭和55年から保護司として、犯罪や非行に走った少年などの更生や社会復帰を支援してこられました。受章について、「突然の受章に恐縮しています。これからも微力ながら犯罪のない地域づくりのために、奉仕させていただきたい気持ちです」と語ってくれました。



保護司として、瑞宝双光章を受章した尾崎さん

市内の産業や特産品をPR

■まきのはら産業フェア2011

市内産業の振興や紹介などを目的とする「まきのはら産業フェア2011」が11月27日、相良庁舎駐車場で開催されました。

今回で3回目を迎え、市内の事業所や団体など80店舗以上が自慢の商品や特産品の販売、紹介を行い、大勢の来場者で会場は大いに活気に満ちていました。

また、昨年に引き続き、就航先や友好都市の市町がブースを出店し、各地の特産品の販売により、商業を通じて各市町との交流を行いました。



大勢のお客さんが詰め掛け、行列ができた店舗もあった

災害時の応援に関する協定書」調印



協定書を手に握手を交わす西原市長と小松市の和由慎司市長

北陸にも災害時の応援の手を

■牧之原市・小松市災害時応援協定調印式

市は11月27日、島田市役所で石川県小松市と災害時応援協定を締結しました。

本市と小松市は富士山静岡空港の開港以来、相互にイベントへ参加するなど交流を深めています。

今回の協定は、本市と島田市との交流を行っている小松市から打診を受け、互いに地元空港を支援に生かされると判断して結ばれたものです。

締結を受け、西原市長は「常日ごろから交流する中で、万が一の際はお互いに助け合いたい」と話しました。



スズキ株式会社の真柴部長から電気自動車の鍵を受け取る田久副市長(右)

電気自動車で環境保全に対応

■スズキEV車貸与式

市は11月22日、スズキ株式会社から電気自動車「EVエブリイ」1台を貸与されました。

この車は、ガソリンは一切使わず、家庭用電源からバッテリーを充電でき、電気だけで走ります。市では、昨年に貸与されたプラグインハイブリット車の「スイフト レンジ・エクステンダー」と共に公用車として使用し、通常走行のほか環境教室などにも活用します。

式では、同社開発企画部の真柴部長から車の鍵が田久副市長に渡され、田久副市長は「2台の環境対応車でエコカーの良さをアピールしていきたい」とあいさつ。式典後、静波放課後児童クラブに通う川崎小の児童らを対象に環境教室も行われました。

芸術の秋・市民が力作を披露

■第6回牧之原市文化祭

第6回牧之原市文化祭が11月5日・6日、静波体育館や榛原文化センターなどで開催されました。

市文化協会会員や趣味で創作活動に取り組む市民をはじめ、市内の幼稚園・保育園や小中学校の児童生徒らが日ごろの活動の成果を披露し、絵画や書道、写真、俳句、水墨画、手芸作品など多彩な分野の作品千点以上を展示。会場では、茶会やお茶の手揉み実演なども行われました。

来場者は出品者の1年間の成果が凝縮された力作を見ながら、芸術の秋を楽しんでいました。



書道の作品を見て、出来栄に感心する来場者ら



子どもたちにハードルの飛び方を教える為末選手

「侍ハードラー」為末選手が指導

■父子チャレンジアカデミー

父子チャレンジアカデミー(NPO法人幼児教育従事者研究開発機構主催)が11月3日、静波グラウンドで開催され、市内外の園児や小学生とその保護者、200組約400人が参加しました。

講師に男子陸上400メートル障害の日本記録を持つ為末選手らを迎え、親子の体力とコミュニケーションの向上を目的に行われました。

参加者は柔軟体操をした後、為末選手らに走るこつやハードルの飛び方などを教わり、親子で楽しみながら一緒に汗を流していました。



広報担当がどこにも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎(23) 0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp